

10 クリーンクリエイティブ株式会社

クリーンブーツの洗浄ニーズの増加に対応した 固形物乾燥工程の効率化



取材に応じてくれた内田代表取締役

会社概要

- 社 名：クリーンクリエイティブ株式会社
- 代表者名：代表取締役 内田 信
- 所在地：〒418-0006 富士宮市外神 2184
- 取材地：同所在地
- 設立年月：平成2年11月
- 業 種：洗濯・利用・美容・浴場業
- 資本金：10,000千円
- TEL：0544-58-4168
- URL：<https://www.nl-supply.co.jp/>



取り組みの経緯



ブーツ乾燥機の改善によって処理能力が向上

顧客の生産現場に直結する クリーニング特化の中小企業

県内有数のクリーンルームを備え、クリーニング全般を基幹事業としているのが、富士宮市のクリーンクリエイティブ株式会社だ。同社は病院・ホテル等における寝具の洗浄業務を中心に事業を拡大、昭和55年には米国規格におけるクラス100,000のクリーンルームを所有した。この規格は1フィート立方中（28.8ℓ）に0.5ミクロン以上の微粒子が何個あるかを表しており、数字が個数を示す。現在では、クラス1,000といった高水準を維持しており、同業他社では取扱いの難しい帽子や手袋、ブーツといった商品の洗浄にも対応している。その後、事業の「選択と集中」を意識し、下火になったホテルリネン・病院寝具等の事業からは撤退、現在の事業へと特化していった。

クリーンルーム用の衣類を中心に扱う同社だが、その取引先の大半は医薬品・医療機器、精密機械機器の事業所となる。なかでも、医療関係のサプライヤーは年々厳格化される薬事法等への対応が必要となり、クリーニング頻度にも影響が出てくる。直近では、ブーツのクリーニング頻度が半月に1回から、1週間に1回へ義務付けられたこともあり、同社への取引先からの発注件数も増加していった。

その一方で、急激な受注量の増加に対し、受入を制限するケースも出ており、根本的な処理能力の改善が課題として浮上した。

事業の概要

富士宮市に位置するクリーンクリエイティブ株式会社は、精密機械機器製造業には欠かせないクリーンスーツのクリーニングを主たる事業としている。本事業では県内有数のクリーンルームを保有する同社にしか実現できない、ブーツ洗浄の乾燥処理能力の向上によって、顧客要望への対応を図った。

取り組みの内容



ブーツ乾燥はラック自体がドライヤー機能を持つ

需要の拡大にしっかり対応 ブーツ乾燥の効率化を目指す

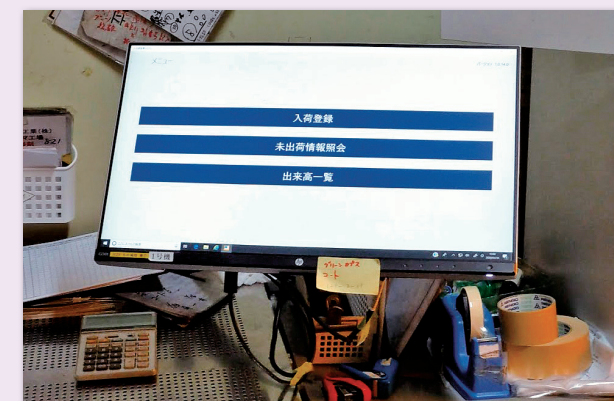
顧客ニーズへの対応を図るべく、同社で検討した点はブーツ乾燥の効率化と高品質のパッケージングであった。クリーニングにおけるリードタイムのうち、乾燥時間が大きな割合を占めるため、処理能力を向上させることで受注に対応できると考えた。

加えて、納品時のクリーンパックについても、処理数の増加が見込まれるため、効率化を図った。特に、近年増加している外国人従事者のブーツは従来の規格を外れるものも存在し、製品に対し負荷が掛かってしまう場合も散見された。

上記の点を踏まえて、同社ではブーツ専用乾燥機のリニューアルと汎用性の高い真空包装機の導入を決めた。乾燥工程においては、1度に54足を収容可能なブーツ専用のラックを導入することで効率化を図る。ラックにはドライヤー機能も付いており、乾燥機の送風筒から直接熱が伝わり、ラック全体を循環する。

新規設備が上手く噛み合えば、現在の1.8倍の生産量が見込めた。

結 果



稼働状況はIoTによりどこからでも把握ができる

処理能力は大幅アップ 自社サービスは次のステップへ

取り組みの結果、乾燥処理能力は目標飛躍的に向上した。新規設備を導入したことで、1回当たりの足数は42足から54足に増加し、乾燥速度についても薄手の生地になれば従来45分／回だったものが20分／回となり、処理能力が大幅に向上した。

また、真空パッケージについても、従来機の横幅が480mmであったのに対し610mmとサイズアップしたため、取扱いが難しかった規格外のサイズや特殊な形状に対しても、商品に余計な負荷を与えない包装が可能となった。

「今後は、顧客への付加価値・サービスをより高めていきたい。」と、内田社長は話す。顧客の性質上、安全衛生に関する基準は今後も厳格化していき、その管理はさらに複雑になっていくことが予想される。こうした状況に、同社ではICタグを活用した衛生状態管理サービスも検討している。

内田社長は、「まだ構想の段階ですが、いずれは弊社からお客様へのIoTサービスの提供を始め、様々な提案をしていきたいと考えています。」と、既に新たな事業へ舵を取り始めている。